地域の中で支えあうために必要なサービス構築への取り組み（四日市市）

平成24年4月より大型団地の中心にある商店街の空き店舗を活用して、①総合相談機能　②食の機能　③地域住民の集いの場としての機能を併せ持った《孤立化防止拠点》を「社会福祉法人青山里会」が運営。現在、１日に約20名あまりの地域住民の方が利用されている。

また、その取り組みと連動する形で、地域住民・自治会が主体となって地域完結型の日常生活支援を目的とした会員制組織『ライフサポート三重西』を発足。
H25年3月より65歳以上の高齢者等向けに、地域住民による安価な日常生活支援サービス提供システムとしてスタートしている。

三重西地区

連携
協働

いきいき安心
生活館
ぬくみ

ライフ
サポート
三重西

・生活相談窓口
（在宅介護支援センター）
・コミュニティレストラン
・地域のサークル活動、
会議
・多様な勉強会　等

日常生活支援
・ゴミだし　・配食
・自宅の清掃
・屋外作業　・外出支援
・買い物支援　等

四日市市

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

① 市区町村名	四日市市(三重西地区)
② 人口（※１）	312,856 人　　（ 4,894 人 ）
③高齢化率（※１） （65 歳以上、75 歳以上それぞれについて記載）	65 歳以上 22.6%　　(65 歳以上 30.5%、 75 歳以上 10.5%　　75 歳以上 11.7%)
① 取組の概要	市内の社会福祉法人が、大型団地の中心にある商店街の空き店舗を活用して、①総合相談機能、②食の機能、③地域住民の集いの場としての機能を併せ盛った孤立化防止拠点「いきいき安心生活館　ぬくみ」を整備。 地域住民・自治会が主体となって発足した会員制の自助組織「ライフサポート三重西」と協働して、高齢者の地域生活を支援する新たなシステムを立ち上げた。
⑤取組の特徴	同法人は、平成 20 年度老健事業推進費等補助金未来志向プロジェクト事業として、「安心住空間支援システムに関する調査研究」事業を実施。そこで見えてきた「孤立化防止拠点には総合相談・食の確保・地域住民が集える場所が必要」との結果を踏まえ、拠点の整備に取り組んだ。 総合相談機能に関しては、老人介護支援センターの届け出を行い、法人単独で在宅介護支援センター(まちかど福祉相談室)を設置し、法人内の社会福祉士等が相談対応を行っている。 また、地域住民による自助組織「ライフサポート三重西」との協働することで、孤立化防止拠点より配食を行う（食事の配達・容器の回収はライフサポートメンバーが行う）など、支援の幅が広がっている。
⑥開始年度	平成 24 年 4 月 1 日　　※ライフサポート三重西は平成 25 年 3 月開始
⑦取組のこれまでの経緯	平成 23 年 10 月　地域支え合い体制づくり事業交付金を受け改修開始 平成 24 年 1 月～地域住民代表者(16 名)と運営委員会を立ち上げ、拠点機能、地域ニーズ等について話し合いを重ねる。(現在隔月で定例開催) ※拠点の名称も運営委員会にて決定 平成 24 年 4 月　運営開始 平成 24 年 10 月　地域住民対象に福祉・介護・保健医療等の啓発を目的として「ぬくみ学校」を開催。 ※運営委員会の中から、ぬくみ学校の運営委員を選出、テーマ等を協議。 平成 24 年 12 月　ライフサポート三重西との連携事業として、ライフサポート会員向けに「配食」「買い物支援」を計画。H２５年 3 月より配食サービスをスタート
⑧主な利用者と人数	三重西地区在住の高齢者等を中心に、１日平均　約２０名の方が利用している
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	実施主体：社会福祉法人青山里会 関連団体：ライフサポート三重西
⑩市区町村の関与（支援等）（※２）	

⑪国･都道府県の関与（支援等）（※３）	平成 23 年度地域支え合い体制づくり交付金　4,700 千円
⑫取組の課題	地域の高齢者をはじめとする地域住民に対する拠点機能についての理解と周知 「ライフサポート三重西」との更なる連携・協働 継続的事業運営に向けた財源確保
⑬今後の取組予定	在宅介護支援センターの機能を生かし、実態把握・総合相談から個別ニーズの把握・集積を行い、地域ニーズに合った新たな拠点機能やサービスメニューの開発を「ライフサポート三重西」及び地域関係諸団体等と連携・協働しながら行う。
⑭その他	
⑮担当部署及び連絡先	介護・高齢福祉課 ０５９－３５４－８１７０

※１　一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口･高齢化率を（　　）内に記載してください。

※２　市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※３　国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

認知症の人を地域で支える事例検討会 （四日市市）

○ 四日市市北日常生活圏域の医師や地域包括支援センターをはじめとした介護関係者で結成した「四日市認知症総合支援ネットワーク（北）」の主催で、認知症事例を用いた事例検討会を開催。

○ 北日常生活圏域を更に小地域に分け、開催エリアの担当ケアマネジャー・主治医が事例を提供。地域の医療・福祉関係者が出席し、事例の検討課題を話し合う。

個別事例　認知症高齢者

環境要因　独居　老老介護　認認介護

課題

- 服薬管理ができない
- 生活の実態把握ができない
- 人の支援を受け入れない
- 出かけたきり家に帰れなくなる
- 食事の確保ができない
- 虐待の危険性がある

富田・富洲原地区：平成23年度、24年度開催

検討会の様子

地域のネットワークでどう支えるか？

個別ケースを通じ、多職種間で意見交換を行う事で、相互理解と役割分担ができる。
⇒ **ネットワークの構築**

個別ケースの課題分析等を積み重ね、地域に共通した課題を浮き彫りにする。
⇒ **地域課題の発見**

在宅生活を支える上で必要な資源は何かを考える。
⇒ **必要な資源の開発**

四日市市北地域の8地区を4エリアに分け開催

富田・富洲原地区：平成23年度から
大矢知・八郷地区：平成24年度から
羽津・海蔵地区：
⇒ 平成25年度開催予定
保々・下野地区：平成26年度以降